



瑞中だより

学校だより第16号
令和7年3月17日
瑞穂町立穂中学校
〒190-1211 瑞穂町石畑 1961-1
TEL 042-557-0070

心に火を灯せ！

校長 池谷 芳彦

人（ヒト）を他の動物から区別する上で重要な要素は火の使用と言語の獲得です。

火を扱えるようになったことで、「食」の幅が広がり、暖をとったり、野生動物から身を守ったりする上で、大きく進歩しました。石器という道具を手に入れたことを「技術革命」とすれば、火の使用は、それに次ぐ「第二の技術革命」と言えます。

また、人類が火を使用するようになったことは、エネルギー革命の第一歩でした。そして、人類の文明は、蒸気機関の発明など、火の利用、活用、応用によって大きく発展し、さらに「第二の火」と言われる電気を利用することを知るに至りました。

現在の私たちは、電子を自由に操れる時代に生きていると言っているでしょう。さらに人類は原子力を手に入れ、これは「第三の火」と言えます。

火は、私たち人類に豊かさをもたらしましたが、使用法や利用法を誤ると、火災など恐ろしい災いをもたらします。特に「第三の火」と言える原子力は、第一の火と第二の火も人類に災いをもたらした側面がありますが、それとは比較にならない桁外れの災いをもたらします。核兵器の使用や原発の事故は、あってはならないことなのに、日本は両方とも被害に合うという経験をしています。

火の取扱いには十分な注意を払い、しっかりとコントロールすることが不可欠です。

そして、もう一つ、目に見えない火があります。それは、皆さん一人一人の心に灯してほしい「情熱の火」「意欲の火」熱意です。瑞中生の皆さんは、コロナ禍を乗り越え、体育祭や合唱コンクール、部活動などに一生懸命に取り組みました。行事に燃えた、部活動に燃えたのです。完全燃焼できなかった、もっとやりたかったという声も多いとは思いますが、たとえ一人の火はわずかであったとしても、それが二人、三人、五人、十人、三十人と集まれば、まぶしいくらいの輝きと明るさになります。クラスで一致団結することの素晴らしさとは、そういうことではないでしょうか。また、エネルギー不足に陥り、消えそうになってしまった時に、心の火を分けてくれた友人もいたはずですよ。そんな貴重な経験ができたことを思い出してください。

令和6年度の終わりに、「佐藤一斎」の名言を紹介します。

「学に志すの士は、当に自ら己を頼むべし。人の熱に因ること勿れ」

誰か勉強熱に火をつけてくれないかな などと人頼みにするのではなく、自分で自分に火をつけるくらいでなくては、お話になりません。

「学を為すの効は、気質を変化するに在り。其の功は立志に外ならず」

志があるから学ぶ、学ぶから性格が良くなって立派な人間になり、志が成就される。そういう好循環を、学びを核にしてつくるのが大切なのです。

「少にして学べば 壮にして為すことあり 壮にして学べば 老いて衰えず
老にして学べば 死して朽ちず」

☆瑞中生の活躍☆ (敬称略)

【 第 49 回瑞穂町駅伝競走大会 】
一般の部 第 6 位 瑞穂中野球部A

【 第58回東京都中学生アンサンブルコンテスト 】
金賞 吹奏楽部

【 西多摩巡回書写展 】

【 第 64 回東京都中学校書初め紙上展 】

出展 ○○ ○○
○○ ○○
○○ ○○○
○○ ○○
○○○ ○○

〔準特選〕 ○○○ ○○
〔金賞〕 ○○ ○○ ○○ ○ ○○ ○○ ○○ ○○
〔金賞〕 ○○ ○○ ○○ ○○○
〔金賞〕 ○○ ○ ○○ ○○



【 西多摩 中学校 技術・家庭科作品展 】

白井 想	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○○	○○ ○○○	○○ ○○
○○ ○○○	○○ ○○	○○ ○○○	○○○ ○○	○○ ○○	○○ ○
○○ ○○	○○ ○○	○○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○○
○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○	○○ ○○	
○○ ○○	○○ ○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	
○○ ○○	○○ ○○	○○ ○○	○○ ○	○○ ○○	
○○ ○○	○○ ○○	○○ ○	○○ ○○	○○ ○○	

【 第2回 瑞穂町 ノートまとめコンクール 】

〔最優秀賞〕 ○○ ○○○ ○○ ○○○ ○○ ○○
〔優秀賞〕 ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○
〔入選〕 ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○ ○○

フォトギャラリー 3月

【3/5(水) 2年「茶道体験オリエンテーション」】



【3/6(木)茶道体験】



【3/6(木) 3年「性に関する授業」】



【3/11(火)英語で地球市民体験！多国籍の留学生と学ぶ
「異文化協働体験」プログラム】



緊急連絡メールについて

これまで、本校では、緊急連絡メールに、「マ・メール」を使用して参りましたが、来年度より、無料で使用できる、「スクリレ」を使用することになりました。「スクリレ」につきましては、現在、瑞穂第三小、瑞穂第五小でも使用しています。手続きにつきましては、4月の新学期が始まったところでご案内申し上げます。それまでは、これまで同様、「マ・メール」を使用いたしますので、よろしくお願いいたします。